**第3回 品川区教育振興基本計画策定委員会
会議録（議事要旨）**

日 時：令和6年8月1日（木）15:00～17:00

場 所：品川区役所第二庁舎8階 教育委員室

出席者：

委員	(出席委員) 樋口委員長、鞍馬副委員長、金子委員、市川委員、松本委員、吉田委員、加藤委員、伊藤委員、外山委員、江藤委員、野口委員、丸山委員、薄木委員 (欠席委員) 宮崎委員、石黒委員
事務局	米田教育次長、佐藤子ども未来部長、船木庶務課長、荒木学校施設担当課長、柏木学務課長、中谷指導課長、丸谷教育総合支援センター長、唐澤特別支援教育担当課長、河内品川図書館長、齊藤統括指導主事、升屋統括指導主事
その他	庶務課庶務係 担当者2名、策定支援助託事業者 担当者2名

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議事

- (1) 第2回策定委員会会議録および計画策定スケジュールについて
- (2) 品川区教育振興基本計画素案について
- (3) 子どもたちへの意見聴取について

【議事概要】

- (1) 第2回策定委員会会議録および計画策定スケジュールについて

第2回策定委員会会議録について、ホームページに掲載したものと同様の会議録を委員に配付した。

計画スケジュールについては、パブリックコメントの実施を1か月後ろ倒しとし、これに伴い今後の会議予定についても同様に1か月後ろ倒しとすることを提案し、委員の了承を得た。

(2) 品川区教育振興基本計画骨子案について

前回会議で得られた意見等を参考として事務局が作成した計画素案を提示のうえ説明し、その内容について委員の意見を伺い、引き続き検討を進めることとした。

なお、パブリックコメントに向けた素案修正について、パブリックコメント開始前に策定委員会を開催するいとまがないことから、正副委員長の確認をもって委員会の承認に代えることを提案し、委員の了承を得た。

<主な意見・質疑>

(委員意見)

品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図が入りわかりやすくなった。イメージ図上部の一行目「私たちが希望する」は、ほかの箇所では「私たちが望む」とあるので表記を一致させると良い。

品川だから船というイメージは想像できるが、もう少し違う見せ方が良い。

保育園幼稚園を指す土台「船着き場」は「港」や「学校教育の玄関口」など別の表現が良い。

(委員意見)

品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図では船を「基盤」、船着き場を「土台」としているが、港など陸に「基盤」と「土台」が一緒にあると、品川区が幼児教育から大事にしていると表せるのではないかと。

また、家族も船になっているが、家族は見守ったり、支えたり、少し先を照らしたりというところで灯台のようなイメージはいかがか。

(委員意見)

品川区版学びの羅針盤 2030 の説明文に、エージェンシーの要素として変化を起こすために自分たちで目標を設定し、自分たちで学び、自分たちで社会をつなぐというメッセージ性を加えてほしい。

また、この説明文では、子どもたちが社会に出てから笑顔でつながる共生社会の実現に向け働きかけかけていくように聞こえたが、そうではなく OECD よりも一歩先に行って、児童・生徒が子どものうちから資質と能力を備え、子どもたち自身が笑顔でつながる共生社会を実現できるというメッセージ性を品川区版の学びの羅針盤 2030 に入れていただきたい。

加えて説明文の最後、「仲間・教師・家族・地域の方々に囲まれ、協力しながら」という箇所についても、相互に作用し高め合いながら目標に向かって目指していくというイメージを盛り込めると良い。

(委員意見)

品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図について、みんなで同じ一つの船に乗り、子どもが船長として羅針盤を持ってビジョンに進んでいくというイメージの方が、私としては分かりやすい。

また、学びの羅針盤 2030 の考え方は、大人になっても必要なことだと感じたので、ずっと必要なものだということが分かるように記載されると良いと感じた。

(委員意見)

品川区版学びの羅針盤 2030 の説明文「子どもたちが目的意識を働かせ～」の段落について、誰がそれを支援していくのか、主語が書かれていない。その上の段落は教育委員会が主語になっているが、子どもたちを育てていくためには大人全員が同じ意識を持って関わっていくという視点が入るほうが良いと思う。

(委員意見)

素案 P.6、基本方針 2 (6) 「保育園、幼稚園、小学校・義務教育学校（前期課程）の連携・交流」についてが、私立園を含めるとすべてで交流までできているとは言い切れないので連携で止めても良いと感じた。

(事務局補足)

上記意見は参考掲載している品川区教育委員会「教育目標・基本方針」に関する意見であるため、「教育目標・基本方針」の次回改定にあたっての参考として受け止めることとした。

(委員質疑)

素案 P.8、基本構想「**年毎に更新」について実際に何年毎の見直しなのか。

(事務局回答)

基本構想は区政運営の中で、新たな区長の就任等により基本となる考え方について一定程度再構築する必要が生じた時に改訂されるものであり、明確な期間はない。当該箇所は「適宜改訂」等に修正する。

(委員意見)

素案 P.19、「近年の主な取り組みの一覧」について、平成 28 年度の「品川地域未来塾」および「品川ドリームジョブ」開始、平成 30 年度の「品川コミュニティスクールフェスタ」開催を追加いただきたい。

(委員意見)

素案 P.16、「品川区における教育の取り組み」の学校教育について、いじめ防止、不登校支援、特別支援教育に関する内容を追記してほしい。

(委員意見)

素案 P.22、「幼児教育との円滑な接続」について、2 段目の「遊びを通じた総合的な指導」の指導という言葉は「学びを支え」や「学びを深め」といった表現が良い。

(委員意見)

素案 P.22、「幼児教育との円滑な接続」の記載は、慎重に、もう少し深めたり、練ったりして、少しお時間いただいて、また事務局の方にお戻ししたいと考えている。

(委員意見)

素案 P.22、「幼児教育との円滑な接続」の吹き出しのような表現は、イメージとしては良いが、おまけのような印象になってしまう。

また、後ほど出てくる P.26「施策体系」との対応関係としては、基盤 1、2、3 は施策体系にも出てくるが、土台は出てこないなので、その位置づけについても検討が必要だと思う。

(委員質疑)

素案 P. 24、品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図を作成した趣旨や意図について改めてご教示いただきたい。

(事務局回答)

将来予測が困難で見通しが利かない社会状況の中、子どもたちがやがて社会の担い手になったときを見据え、主体性、エージェンシーという概念をどのように区の教育に置き換え、子どもたちが活用していくのに有用なものだということから出発し、OECD ラーニング・コンパス 2030 を基に作成した。

また、補足となるが、OECD ラーニング・コンパス 2030 に品川らしさをどう加えていくかを検討する中でページの右下「品川区版 AAR サイクル=5つのステップ」の記載を加えた。AAR サイクルとは、OECD が打ち出した学びを深めるサイクルであるが、そこに市民科で学んでいるプロセスである5つのステップを重ねました。市民科を扱う教員がこれを見ることにより、今まで行ってきた市民科の指導を価値づけしたいという想いで掲載した。考え方としては、このステップの1把握、2認識、3習得がアンティシペーション（見通し）、4実践がアクション（行動）、5深化がリフレクション（振り返り）ということで、AAR サイクルと市民科5つのステップを関連づけるような示し方をしているところに品川区の特色があると考えている。

(委員意見)

素案 P. 24、品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図は、この計画を印象付ける大切なものであり、最初の導入部分の図表としてより良いものになればいいと思う。

(委員意見)

素案 P. 24、品川区版学びの羅針盤 2030 の説明文1行目に「VUCA な世界」について、品川独自の羅針盤なので、この図がクローズアップされて様々な資料として展開されたりするときに、このページの中で説明がないままに「VUCA」という文言が使われていて良いのか。ほかのページで注釈はついているが、このページのみで完結できる表現を検討すると良い。

(委員意見)

素案 P. 24、品川区版学びの羅針盤 2030 について、図表と文章が入り交じるような表現になっているのは分かりづらい点もある。

(委員意見)

素案 P. 25、ビジョンの説明文に、子どもたち同士が互いを認め合うとか、多様性を認め合うとかいうような言葉がないので記載いただきたい。

(委員意見)

私は地域の町会長として校区教育協働委員会に参加し、折に触れて町会行事等への参加を呼びかけているが、子どもたちは地元育ちの子どもたちがあまりおらず、参加が少ない状況にある。できれば学校の方からも、機会を捉えて子どもたちに参加を呼びかけていただきたい。

(委員意見)

素案 P. 26、施策体系の「基盤」の下に「土台」として幼児教育を追記したい。

(委員意見)

素案 P. 28、方針 1 の手法等における「9 年間の学校教育」について、品川区は一貫教育を推進しているので、「一貫教育」に変えると、より品川らしさが出てくると思う。

(委員意見)

素案 P. 28、方針 1 の手法等「9 年間の学校教育」について前述の意見に加え、「幼児期からの一貫した」等の表現とすれば、幼児教育を含めて品川区の教育が進んでいるというところが伝わる。

(委員意見)

素案 P. 29、方針 6 の目指す姿「見守られる」については、OECD ラーニング・コンパスを前提とすると「見守る」では弱い。羅針盤が強調しているとおりに、周囲に囲まれて協力し、互いに影響を及ぼし合うという要素を、文言として共通して入れていくと良い。できるだけ OECD ラーニング・コンパスと品川区版の学びの羅針盤と柱と方針が同じ言葉を使って説明されていくと繋がりが見えてくると思う。

(委員意見)

素案 P. 29、方針 6 について、見守られるだけではなく、子どもたちが共に参画するような、子どもたちもまた地域の担い手であることが表現できると良い。

(委員意見)

素案 P. 29、P. 31、方針 10 にスクール・サポート・スタッフや副校長補佐があるにも関わらず、どの方針にも地域コーディネーターが含まれない。方針 6 または方針 10 に、学校地域コーディネーターの配置により地域との連携をスムーズに行い、社会に開かれた教育、および地域に開かれた学校づくりを進めているというような文言を追記いただきたい。

(委員意見)

素案 P. 31、方針 10 のタイトルについて、サポートというのと、やはりスクール・サポート・スタッフや副校長補佐による支援という形になると思うが、目指す姿の記載としては、教員の資質・能力の育成・養成が冒頭にあるので、タイトルのサポートという言葉とのずれを感じる。学びの羅針盤が子どもたちの資質・能力を向上させられるように、教員自身も子どもたちの新たな力を育成するための資質・能力の向上が必要であり、そういった内容が目指す姿として書いてあると思うので、それを反映した方針 10 のタイトル表現にできると良い。

(委員意見)

素案 P. 37、「方針 2 専門的な学力の育成」は「確かな学力の育成」の誤記だろうと思われるので修正が必要である。

(委員意見)

素案 P. 36、進行管理について、このページは品川区としての進行管理についての記載だと思うが、学校における校区協働委員会での進行管理もあるので、そこへの公表や評価という点もどこかに記載されると良いと思う。

(委員意見)

素案 P. 37～42、主な取り組み事例について、方針 3 の取り組み事例として、就学前教育と義務教育との円滑な接続に関する取り組みも触れられると良い。

また、方針 6 の取り組み事例としても、各地区区民まつりに児童・生徒が関わっていたりするので、区内のどの地域でもすごくいい取り組みの事例があれば取り組み事例として掲載できると良い。

(委員意見)

素案 P. 37～42、主な取り組み事例全般について、学校地域コーディネーターが、様々な外部の方との連絡調整を行っているというところを、せつかく会計年度任用職員として任用していただいているので記載していただきたい。

具体的には、方針 1 で地域の方との連絡調整をコーディネーターが担っているとか、方針 2 に関してもコーディネーターが外部との調整を行っている。方針 3 も部分的には行っているし、方針 4 に関しては企画運営を実質的に担っているのは各学校のコーディネーターであるため、その点について触れていただきたい。

(委員意見)

素案 P. 36、進行管理について、PDCA の図表下部の四角い枠はチェック、PDCA の C で用いるという話だと思うが、P、D、A についても具体的な記載をもう少し盛り込むことができると思う。

(委員意見)

素案 P. 37～42、方針 6 に係る主な取り組み事例について、先日、荏原第一中学校で、8 学年の生徒を対象に、保護者、地域の方、大学生などとトークトークダンスという市民科の授業だったと思うが、ディベートを行うことがあり私も参加した。各校でやっている取り組みで、なかなか規模が大きかったので、そういったものも取り入れると品川らしい取り組み事例になると思う。

(委員意見)

素案 P. 24、品川区版学びの羅針盤 2030 のイメージ図について、子どもは楽しんで見られないと思う。これ見ても「なんだろう」という印象になってしまう。作ってくださって申し訳ないが、もう少し子どもが飛びつくようなアニメーション的なものがあると、子どもも少しは興味を持って見ることができると思う。

また、この土台の位置はかわいそうかなと思う。子どもに僕どこなのかと聞かれた時に船着き場だと切ないと思う。

(委員意見)

計画を策定した後の説明が大事だと思っている。特に、ウェルビーイングが何だろうというのが、皆さんの正直な最初の考えである。その辺を大きな位置づけとしてお考えいただけたらありがたい。

地域の方から様々な話があったが、品川区は 13 地区であり、各地区委員会は 13 地区でそれぞれに年間を通じて行事を行っている。13 地区で、年間 4 万人くらいが学校以外の場で動いているというのが現実である。各地区委員は大変熱心に取り組んでおり、もちろん学校の理解を得ながらやっているが、地区事業としてそのように行っている。加えて 13 地区が集まった地区委員会連合会としても事業を実施しているので、

あらためてご理解いただきたく思う。地域事業は目立たないようだが、今、たくさんの子どもたちが参加する傾向がある。隣で出席している青少年委員も、委員の皆さんが日曜日を使って活動している。応募が増えているということで、子どもたちの参加意識が高まっている。それも含めて地域活動、学校との連携で非常に大きな役割を果たしていることを改めて認識いただきたく思う。

(委員意見)

素案 P. 37～42、主な取り組み事例で、色々とり上げられていたが、私にも今9年生の子どもがおり、様々な体験をしたという話も聞いているところである。私自身は今まではあまり詳しくなく、羅針盤のようなものを詳しく見たことがなかったので、学びながら拝見したが、デザインもすごく分かりやすい。子どもたちに質問された時に大人も説明できるように、もう少し理解を深めていかなければいけないと思っている。今回新しく覚えたことがたくさんあるので、それを無駄にしないようにしていければなと思っている。他の人にも広げられるようにしたいと考えている。

(3) 子どもたちへの意見聴取について

計画策定にあたり実施する子どもたちへの意見聴取について、前回会議以降の事務局検討状況について説明し、実施内容について概ね了承を得られ、引き続き検討を進めることとした。

<主な意見>

(委員意見)

テーマ「みんなが笑顔になれる学校」について、ここでいう「みんな」の定義は、大人が答えを伝えるのではなく、「みんな」が誰を指すのか子どもたちに問いかけてみると、ウェルビーイングを考えるさらに良い機会になると思う。

4. 連絡事項

5. 閉会